

# 世界遺産登録に向けて

## 西三川砂金山(13) —「大流し」と「すかし」—

『西三川村誌』(昭和23年・西三川村役場)によれば、砂金山の作業は、「朝普請」と称して、毎日朝六ツ(午前6時頃)から暮六ツ(午後6時頃)まで、冬は朝五ツ(午前8時頃)から稼ぐ、とあります。

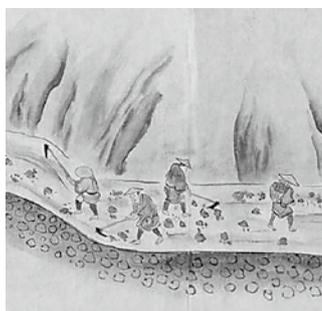
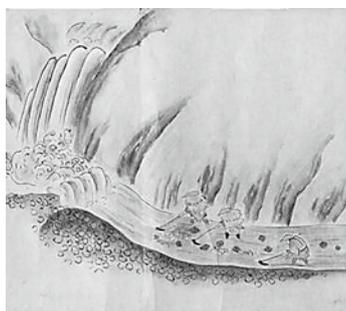
また、「西三川砂金稼方図」には、具体的な作業内容が描かれています。それによれば、「水戸通り」と呼ばれる水路に、川幅に応じて高さ4尺から5尺位の「築」といって石垣を4間から5間おきに何か所も積み上げます。これを「ねこ尻押し」といいます。そして、稼場の山をツルハシで切り崩し、大きな石などを取り除いた後で、上流の堤から水を流します。すると土砂は流れ出て、築の中に溜まります。そこから洩れ出た土砂は、「ねこ尻」に溜まります。

水が流れきったあと、水戸通りに埋まっている石をツルハシでかき出し、そこへ掘り崩した土砂を集めて、再度水を流して残った石を取り除きます。大規模な稼場では2か所の堤から水を流します。これを「大流し」といいます。溜まった土砂が多く、築より高く堆積した場合、上から切り崩していきます。これを「すかし」といいます。

この作業を月初めから24、25日頃まで繰り返して続けます。これを「荷江付」といいます。このようにして、水戸通りに砂金を溜めていきます。

◆市役所世界遺産推進課

(金井就業改善センター内) ☎63—5136



「大流し」と「すかし」(右端図):佐州金銀山之図 西三川砂金山稼方図より(新潟県立歴史博物館蔵)



佐渡ジオパーク

## ジオパーク、推進日記

55

### ジオパーク遠足に行こう!

先日行われた河原田小学校の学校遠足では、ジオパーククイズを解きながら歩く、ウォークラリー形式が実施されました。

児童たちが小木半島をただ歩くだけではもったいない!ということで、小木半島にあるジオパーク看板をヒントに、クイズを解きながら歩きました。

当日はあいにくの天気でしたが、児童たちは、深浦駐車場から江積までの海岸線を班ごとに分かれて歩いて行き、途中でジオパークの看板を見つけると、高学年が中心となり、楽しみながらクイズの答えを考えていました。

これまでの小学校におけるジオパーク学習では、理科や総合的な学習の時間など、高学年対象のものが多かったですが、ジオパーク遠足なら、低学年から高学年まで多人数で参加することができます。

お弁当を食べた後は、クイズの答え合わせと小木半島ジオサイトの成り立ちについて、推進室の学芸員が解説を行いました。ジオパーククイズに答えることで、小木半島がどのようにしてできたのかということと、

小木半島の大地が人の生活とどのように関わっているかということを知ることが出来ます。

他の地域の特性を学んでから、自分たちの地域と比較することで、自分たちが住む地域の良さを再発見することも出来ます。

このプログラムは、学校だけでなく、地域で行う行事でも活用出来ます!小木半島の段丘面を歩くので、高低差はほとんどありません。車やバスでは見落としがちな小木半島の魅力を知ることが出来ます。

集落行事でジオパークを歩いてみたい!という方は、ジオパーク推進室までぜひご連絡ください。

◆教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室(両津支所内)  
☎27—4185

